

# テッポウユリ「プチホルン」における切り花着色剤の利用方法

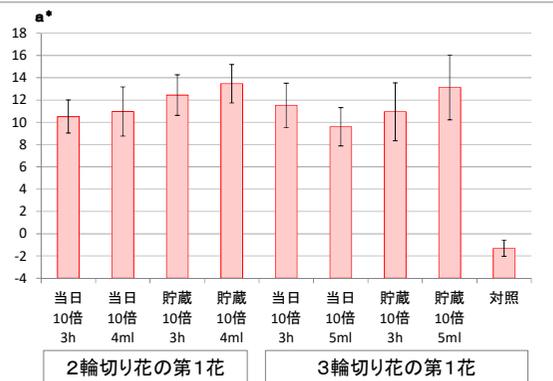
切り花着色剤で「プチホルン」の切り花を自然な色合いに着色可能

## 背景・目的

- ・小輪の花が特徴的な県育成テッポウユリ「プチホルン」は、アレンジメントや花束などに利用され、人気上昇
- ・市場関係者からは白だけでなく、黄色や桃色などの花色バリエーションに対して強い要望

## 成果の内容

「プチホルン」の切り花に、切り花着色剤のピンク10倍液を2～3時間吸わせるか、切り花1本あたり3輪で5ml、2輪で4mlを吸わせることで、花を薄いピンク色に着色可能。



着色剤による切り花の色度  
(着色目標: a\*値10~15)

(試験方法)  
供試切り花: 採花当日、もしくは5°C・4日乾式貯蔵  
切り花調整: 長さ75cm, 脱葉20cm  
着色処理: 同日15時~(処理後、常温生け水)  
花色調査: 全花開花時に花被先端付近を色彩計で計測  
着色剤: ファンタジー



着色処理の流れ

着色処理に要する資材コスト

処理方法	切り花1本あたり	
	吸液量(ml)	資材コスト(円)
ピンク10倍2時間	4.6	1.3
ピンク10倍3時間	5.0	1.4
ピンク10倍4ml/本	4.0	1.1
ピンク10倍5ml/本	5.0	1.4

導入メリット

1本あたり一定量処理は、簡単で、しかも着色が安定



### 吸液量の目安

- 3輪の切り花 5ml/本
- 2輪の切り花 4ml/本
- 1輪の切り花 3ml/本

### メリット

- ・時間を気にする必要がない
- ・液が無駄にならない
- ・着色が安定する

左の写真は2輪の「プチホルン」切り花に黄色原液(左)、とピンク10倍液(右)を4ml/本吸わせたもの(中央は無処理)

- ・市販の切り花着色剤で、様々な色のバリエーションを楽しめ、「プチホルン」の消費が拡大。
- ・本技術は、開花していない蕾で処理すれば、生産者、実需者、消費者のどの段階でも利用可能。

### 普及対象・範囲

県内テッポウユリ切り花農家、実需者、消費者など

## 期待される効果

「プチホルン」の消費拡大、産地の活性化

鹿児島県農業開発総合センター果樹・花き部花き研究室